

平成 31 年 1 月 3 0 日、スラバヤ日本人学校において第 9 回感染症研究国際ネットワーク市民講座を開催しました。

インドネシア国スラバヤ市において在留邦人を対象に感染症に関する市民講座を開催しました (7:30-9:30: 参加者 22 名)。昨年度に引き続きスラバヤ日本人学校とのジョイント企画として同校の児童生徒の保護者を主な対象者として開催しました (日本人学校外からの参加者もあり)。小さなお子さんは自分で感染症を防ぐことは難しく、海外においては保護者自身の健康を守ることもより大変です。今年度も事前アンケートのご要望にお応えする形で、神戸大学大学院医学研究科附属感染症センター感染制御学分野勝二郁夫教授が「下痢症について」、同感染症センターインドネシア拠点内海孝子特命講が「乳幼児期のワクチン接種・インドネシアで流行している感染症」について講演しました。誰もが一度は罹る身近な病気である下痢性疾患については食の安全という観点からも関心が高かったようです。また、折しも、その日スラバヤ日本国総領事館より「東ジャワ州でデング熱罹患者の増加」という報道がありました。常に感染症にさらされているインドネシアでは、より精度の高い情報の共有が必要であることを再認識しました。今後も有意義な情報を発信していけるようにしたいと思います。

尚、本市民講座はアウトリーチ活動の一環として行われました。

